

2016年8月22日
株式会社日立製作所
株式会社三菱東京UFJ銀行

日立と三菱東京UFJ銀行が、シンガポールにおいて 小切手の電子化を対象としたブロックチェーン技術活用の実証実験を開始

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)と株式会社三菱東京UFJ銀行(頭取:小山田 隆/以下、三菱東京UFJ銀行)は、このたび、シンガポール共和国(以下、シンガポール)において、小切手の電子化を対象としたブロックチェーン技術*1活用の実証実験を開始します。

具体的には、ブロックチェーン技術を用いて電子小切手の振り出しや譲渡、取り立てを行うシステムを共同で開発し、三菱東京UFJ銀行が当該小切手の発行・決済を行い、日立グループの複数拠点で小切手の受け取りや取り立てを実施します。

両社は、本実証実験を通じて、技術・セキュリティ・業務・法制度など、さまざまな観点からブロックチェーン技術の活用における課題を抽出し、小切手の電子化をはじめとする新たな金融IT(FinTech)*2サービスの実現をめざします。

近年、ブロックチェーン技術を活用した新しい金融サービスの提供、金融サービスの効率化に向けた取り組みが本格化しています。ブロックチェーン技術は、金融決済などの取引に関する情報をネットワーク上の複数のコンピュータにて共有する技術で、情報の改ざんが極めて難しいとされています。ブロックチェーン技術の応用により、システム投資コストを低減しつつセキュリティを確保した利便性の高い金融サービスの実現が期待されています。

シンガポールでは、金融監督当局主導で、FinTechサービスの発展に向けた枠組み(Regulatory Sandbox)のガイドライン策定に関する市中協議文書が公表されています。今回の実証実験は、アジア地域における日立と三菱東京UFJ銀行の協創の取り組みの一つとして、この枠組みを活用し、日立のアジア地域統括会社である日立アジア社と三菱東京UFJ銀行が中心となり開発したシステム上で、ブロックチェーン技術を活用した電子小切手の発行・決済、ならびに実用化に向けた課題抽出を行うものです。

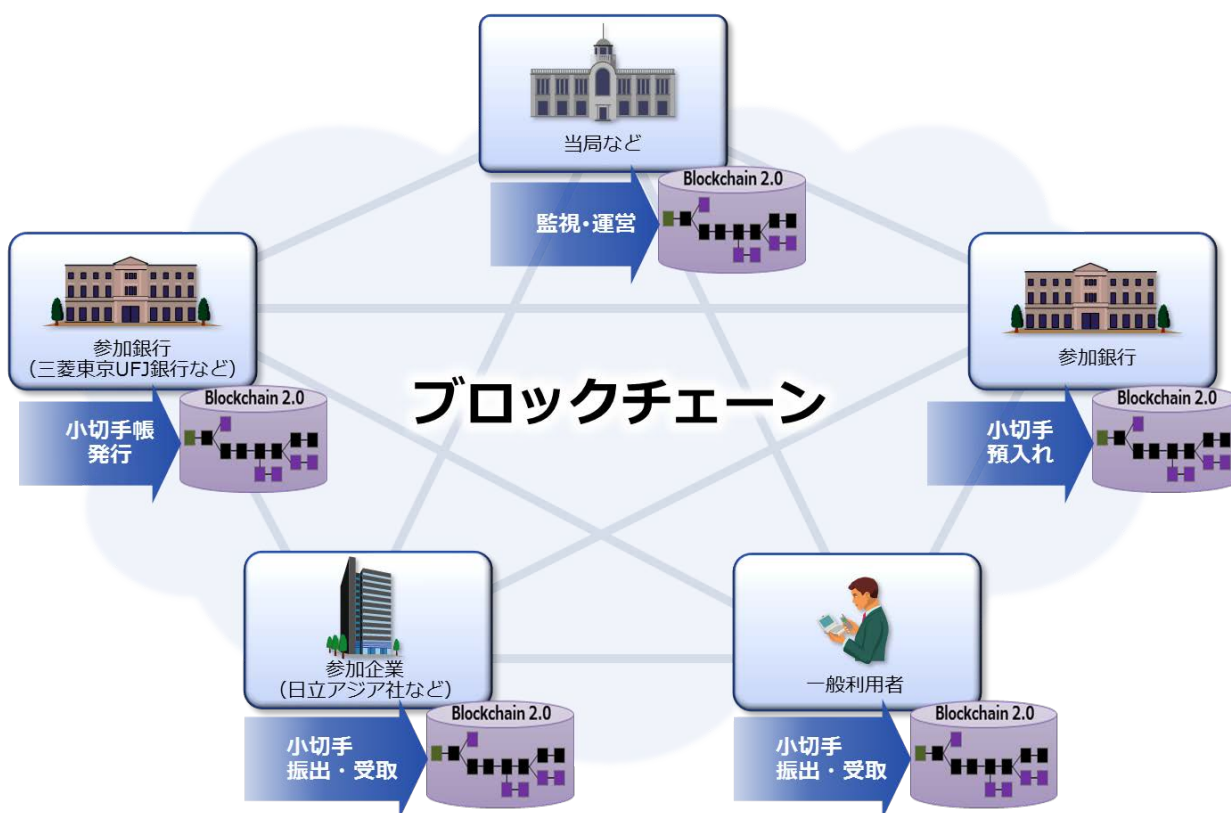
電子小切手におけるブロックチェーン技術の活用を実現することで、金融機関における小切手の仲介業務の自動化や取引記録の改ざん防止、小切手決済の迅速化が可能になるほか、将来的には金融以外の業界における決済やサプライチェーン・ファイナンスへの応用が期待できます。

今回の実証実験をはじめとして、両社は、今後もブロックチェーン技術の実用化に向けた取り組みを重ね、金融サービスのグローバルな発展に貢献していきます。

*1 ブロックチェーン技術:分散型台帳技術。複数拠点に分散されたサーバなどの通信機器に、それぞれ同一の記録を同期させて一つの台帳を維持する仕組み。

*2 FinTech: Finance(金融)と Technology(技術)を組み合わせた造語。最先端のITを駆使した革新的な金融サービスやそれらを創出するための活動。

■将来の構想(イメージ)



■日立の金融ソリューションに関する Web サイト

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/finance/>

■三菱東京 UFJ 銀行の Web サイト

<http://www.bk.mufg.jp/>

■商品名称等に関する表示

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社日立製作所 金融ビジネスユニット 金融システム営業統括本部 [担当:小清水]
〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 1 号
お問い合わせ先:<http://www.hitachi.co.jp/finance-inq/>

株式会社 三菱東京 UFJ 銀行 システム企画部 [担当:徳間、田中]
〒100-8330 東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 1 号
TEL:03-3240-7816、03-3240-3287

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
